

ソラマメ (ハウス)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ハウス	○ △ ~ ◎ — × — () ————— × // // // //												
主な作業	被覆		摘収	芯種						播種	本ぼ	移植	主枝
										種子	準備		摘収
										冷蔵			

ソラマメ マメ科、原産地：中央アジア、地中海沿岸

作物名 ソラマメ

学名 Vicia faba L.

作型 ハウス

————— 技術体系 —————

1 作型の特徴

ハウス栽培は、種子の低温処理を行って開花期を早め、11月上旬ハウス内に定植することにより生育を促し、2月中旬から収穫に入る作型である。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度

低温により花芽分化するので、高温期に播種する本作型の場合は種子の低温処理が必要である。

種子の発芽適温は 15 ~ 20 °C で、10 °C 以下または 30 °C 以上になると発芽率が悪くなる。

生育適温の幅は狭く 16 °C ~ 20 °C とされ耐暑性に劣る。また、花芽分化後は -5 °C で茎葉が枯死することがあり、特に花や幼莢は低温に弱く 0 °C 以下になると落花、落莢や子実の生育不良をおこす。

(2) 土壌条件

土壌の適応範囲は広いが、耐乾性に劣るため、保水性の良いやや粘質土壌が向いている。火山灰土はリン酸の肥効が悪いため事前に改良が必要である。

酸性土壌を嫌い、中性または微アルカリ性土壌を好む。

4 施設装備

- (1) 単棟ハウス
- (2) 冷蔵庫

5 経営目標

- (1) 収量 2.2t/10a
- (2) 投下労働時間 600 時間/10a
- (3) 所得率 45 %
- (5) 経営規模 10a

(家族労働力 2 人の場合)

————— 栽培技術 —————

1 品種と特性

「陵西一寸」

多収で三粒莢が多く、莢色は濃緑で新鮮感があり、早熟性である。種上根が少なく直根中～下位から下根が多く小雨の年に向いている。

「ハウス陵西」

陵西一寸より低段での着果がよく、太りも若干早いため、ハウスまたは短期収穫取りに向いている。

しかし、着果させすぎは細莢の原因となり、摘莢・摘花作業は増える。上根が特に発達するため多雨の年に向いている。

2 育苗

(1) 播種量

本圃 10a あたり 7 ~ 8 ㍓

(2) 催芽と低温処理

9 月上旬頃行う。ソラマメは低温処理を行うことにより、開花節位を下げ、開花期を早める効果が高

いので早だし栽培では必ず実行する。

- ①播種方法 水稲用育苗箱に種子のオハグロ部を下にして播き、種子が隠れる程度に覆土する。(条播き)
- ②灌 水 発育障害・立ち枯れ病予防のため、カルクロン(350倍)+種子消毒剤をかけ、20℃以下の冷暗所に置く。
- ③低温処理 3～4日後、発根した種子を種子消毒剤で洗い、穴のあいたポリ袋に入れ、コンテナにつり下げて3～5℃で25～30日間冷蔵する。
- ④順 化 低温処理後、15℃程度で半日程おいて外気温に慣らせる。

欠株に対応するため9cmポリポット等に補植苗を準備する。

3 本圃の準備

連作圃場では土壌消毒を行う。植え付けの1ヶ月前までに堆肥、土壌改良資材を投入し、10～15日前には施肥畦立てをして土壌水分のあるうちにマルチを被覆する。根は、酸素要求度が高くまた乾燥、加湿に弱いため通気、保水性を保つよう深耕し、地下水位の高い所は高畦とする。

(1) 施肥量 (kg/10a)

	N	P ₂ O ₄	K ₂ O	備 考
基 肥	17.6	21.1	14.4	堆肥 2t
追 肥	4	—	—	炭酸苦土石灰
合 計	21.6	21.1	14.4	120kg

(2) 栽植様式

畦幅 120cm、株間 55cm(1,510株/10a)を標準とする。密植すると採光、通風が妨げられ、結実不良になる。

4 移植(定植)

移植の1週間前までにマルチングし、畦の中心より少し肩側に移植穴を開ける。

原則として移植は浅植えにする。

5 本圃の管理

(1) 整枝と誘引

整枝は1月頃おこない、基本的には3本仕立てとする。L字誘引法については、株元から15～20cmのところに支柱を立て、テープを張り引き上げる。

誘引テープは1段目10cm、2段目以降20～30cmの幅で3～5本張る。

(2) ビニル被覆と温度管理

寒害対策としてハードニングのため被覆は早く行わない。基本的に1月上旬までサイドは開けておき、保温のための開閉は1月中旬以降に開始する(天候に注意する)。ハウス内温度が20℃以上になると花粉の働きが次第に弱るので、温度が高くならないよう換気に十分注意する。

(3) 摘花と摘莢

1節1莢を目標におこなう。蕾の頃から1節2花を残し、着莢後3粒莢以上を残す。

(4) 追肥と灌水

追肥は、開花・着莢確認後施用する。1回あたりの追肥量は10a当たり窒素成分2kgとする。灌水は定植直後及びビニル被覆直後は十分灌水する。その後も適宜に灌水する(目安:pF1.8～2.0)。

(5) 草勢維持対策

開花期～着莢時はメリット黄を主体に、肥大期以降はメリット青を主体に葉面散布する。

6 収穫

野菜用としては子実が固くならないうちに収穫する。ソラマメは初め、莢が上向きに直立して着いているが、成熟するにつれ下向きになる。品種や生育の程度により多少異なるので一概には決められないが莢が水平かやや下向きになったときに青果用としての熟期とされている。外観的には莢の幅が広くなり、子実のふくらみがはっきり確認でき、色が濃緑色に変色し光沢をおびてくる。この頃莢を割って子実を取り出し、オハグロ(胎座跡)の部分を爪で触ると離れやすくなっている。このときオハグロはピンクから薄茶褐色になっており、茶褐色になったものは過熟である。

また、開花から収穫までの日数は43～78日で開花期の早いほど早く、平均53日で、その平均積算温度は約790℃である。